

ヲ發起シ數十歩出行スル者ニ付仍ホ鳥獸獵規則ニ依リ  
情輕キ者ヲ以テ三圓ノ罰金申付規則ノ通出訴スル者ニ  
賞金ヲ給シ可然哉

指令

未タ遊獵ノ地ニ至ラスシテ斷念スル者ハ犯則ノ限ニ  
アラス

○古着古鐵等賣買規則

東京府ノ部

(第二百十七條) 明治六年七月十三日東京府乾第百九十一

號達

市在區々戶長

別紙ノ通御達相成候條各區適宜ニ任セ早々結社ノ上一

社毎ニ名前帳取束子可差出事

別紙御達同六年七月二日

其府下古着古金等渡世ノ者取締規則別冊ノ通被相定候

條施行可致候事

但警保察へ打合可取計事

今般盜ニ品並遺失品搜索便利ノ爲メ左ノ商業ノ者夫々

規則相立候事

一質屋

一古衣類商賈

一古銅鐵金銀類商賈

一古道具類商賈 附古木商賈

一兩替屋

一紙屑屋

社ヲ結フノ規則

- 第一則 各商共毎小區ニ社ヲ結フヘシ共同商ノ多寡ニ隨ヒ每區内兩社或ハ隣區ニ亘リ一社トスルノ類其適宜ニ任セ毎社人撰シテ頭取壹人或ハ數人ヲ置キ取締ヲ爲サシム可シ
- 第二則 質屋兩替屋皆同業ニテ社ヲ結フ可シ
- 第三則 古衣類商賈ハ從前ノ古着屋古着買西洋服ノ古ル品等ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フ可シ
- 第四則 古銅鐵金銀類商賈ハ從前ノ唐物屋小道具屋古鉄買並ニ潰シ金銀地金賣買時計屋袋物屋刀劍類ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フ可シ
- 第五則 古道具類商賈ハ從前ノ雜道具屋大道具西洋靴傘等ノ古ル器ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フ可シ

第六則 紙屑屋ハ同業ニテ社ヲ結フ可シ

但シ其一家ヲ成サスシテ紙屑ヲ買廻リ身元慥ナラサル者ハ紙屑屋ノ買子或雇丁トナシ鑑札ニ何某買子ト記シ所持シム可シ  
剛除達第二百廿一條參看

第七則 從來商業ノ者又ハ新ニ其商業ヲ營ム者悉皆其地方廳ノ鑑札所持致ス可シ

第八則 各社毎ニ名前帳二冊ヲ製シ商業並住所本籍寄留姓名年齢等ヲ記シ銘々印形ヲ押シ其區戶長ニ差出ス可シ戶長ハ一冊ヲ有シ一冊ハ警部ニ付シ若シ移住シ從前ノ業ヲ營ム者ハ鑑札名前帳共相改メ又ハ新加入改業病死等其時々届出可シ

但名前帳ヲ製スル等ハ其社頭取ノ任タル可シ

第九則 新ニ入社致ス者ヨリ入社金ヲ貪リ取リ又ハ飲

食其他ノ入費ヲ相懸ル等ノ事相成ラス

第十則 鑑札料商社頭取手数料等ノ入費ハ戸長ニテ取調フヘシ不相當ノ儀相成ラズ

掲示條款

第一條 銘々明細帳ヲ製シ其社頭取戸長ノ押切判ヲ取リ紙數ヲ記シ置キ其商業取リ引人ノ住所姓名物品等總テ此帳ニ記載ス可シ且又別ニ品觸寫帳ヲ製シ置キ品觸アラハ之ヲ詳記ス可シ

但品觸寫帳ハ頭取戸長等ノ押切判ニ及ハス  
第二條 典賣主ノ住所姓名ハ兼テ熟知ノ者ト雖モ必詳細ニ明細帳ニ記載シ當人ノ一判ヲ取リ置ク可シ若シ住所姓名等ヲ熟知セサル者ハ證人ヲ同道致サセ其兩判ヲ取リ置ク可シ兩替屋モ金高並ニ替主ノ姓名住所

等ハ同様タル可シ  
改正達第二百廿四條參看

但証人ハ男女ヲ不論其住所姓名ヲ知ル者ニ限ル可シ

第三條 兩替屋ハ替へ主所持ノ分贖札贖金ト見受ル時ハ其旨ヲ申聞速ニ巡查番人等へ届出可シ又ハ古金銀或ハ身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必證人ヲ立サセ兩判ヲ取リ置ク可シ  
改正達第二百二十條參看

第四條 同商ニテ鑑札所持ノ者ト賣買ハ一判ニテ然ル可シ

第五條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定メタル物ヲ典賣スル者アラハ留メ置巡查番人又ハ其詰所ニ訴出ツ

第六條 典賣主又ハ兩替ヘテ頼ム者ヲ怪シク見受タル  
改正達第二百二十一條參看

時ハ速ニ巡查番人等へ届出ツ可シ 改正達第二百一十一條參看

第七條 不正品ト心付キ品觸ヲ待タス速ニ訴へ出タル分ハ他日不正タル事相顯レシ節其全價ヲ詮議ノ上下ケ與フ可シ

品觸アリテ速ニ訴出不正品ノ事蹟相顯レタル時ハ時宜ニヨリ原價十分ノ三分ヲ與フ可シ

但シ全價ヲ下ケ與フルハ盜マレ主ニヨリ十分ノ四分

ヲ出サシメ官ヨリ贖金ノ内ヲ以テ六分ヲ給ス三分

分ヲ與ルハ盜マレ主一分ヲ出シ官ヨリ二分ヲ給ス

可シ 改正達第二百一十條參看

第八條 居商ハ店頭ニ看板ヲ掲ケ置ク可シ行商ハ腰ニ

鑑札ヲ帶フ可シ

第九條 品觸ノ節品觸寫シ帳ニ記載シ似寄リノ物アラ

ハ速ニ其區番人詰所ニ訴へ出ツ可シ

第十條 無鑑札ノ者及ヒ身元慥ナラサル者ヨリ街衢途

上郊路等ニテ物品ヲ買取儀相成ラス 改正達第二百一十條參看

第十一條 紙屑屋買子雇丁ハ紙屑ノ外買取ル可カラス

改正達第二百一十條參看

(第二百十八條) 明治六年八月四日東京府番外第七十一號

達

區長戸長

府下市街紙屑拾ヒト唱徘徊候モノ多少有之右者其儘差

置候而ハ不取締ニ付今般乾第百九拾壹號ヲ以相達候古

着古金其外渡世取締規則中第六則但書ニ倣ヒ前斷紙屑

拾ヒノモノ共人名取調一社毎ニ頭取共ヨリ鑑札相渡締

三四五 方相立候様可致事

(第二百十九條) 明治七年十一月二十七日御達

司法省

別紙東京府下古衣古鐵等ノ商業取締規則揭示條款中改正ノ儀別紙ノ通内務省へ相達候條此旨可相心得事  
別紙  
百二十條ト同  
文ニ付零之

(第二百二十條) 明治七年十二月二十日東京府番外達

別紙ノ通内務省ヨリ達有之候間各區無洩可相徇者也

別内務省達 同七年十二月十八日

其府下古着古鐵等渡世ノ者結社規則中第六則但書ヲ刪去シ同ノ揭示條款中別紙ノ條々改正可致此旨相達候事  
第三條 兩替屋ハ替主所持ノ品價札價金ト見受ルルハ其旨ヲ申聞引替ヲ斷ハルヘシ且身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必ス証人ヲ立サセ兩判ヲ取置ヘシ

改正達第二百一十一條參看

第七條 不正品ト心付品觸ヲ待タス速ニ訴出タル者ハ

他日不正タルヲ相顯レシ節詮議ノ上其全價ヲ下ケ與フベシ

品觸アリテ速ニ訴出タル者ハ原價十分ノ八分ヲ下ケ與ヘシ若其者不正ノ所業有之キハ相當ノ處分アルヘシ

但シ右下ケ渡代價ハ裁判所ニ於テ贓贖金ヲ以テ給與スヘシ

第十條 街衢途上郊路等ニ於テ身元慥ナラサル者及ヒ

同商業ト雖モ無鑑札ノ者ヨリ物品ヲ買取可カラス

第十一條 古着買古鐵買紙屑買其一家ヲ成サスシテ買廻ル者ハ古着屋唐物屋紙屑屋等各其同商ノ買子或ハ

雇丁トシ鑑札ニ何某買子或ハ雇丁何某ト記シ所持セ  
シムベシ

但各其商業外ノ品物ヲ買取ルヘカラス

(第二百二十一條) 明治八年四月二十八日御達

司 法 省

今般内務省伺古着古鐵渡世ノ者結社規則改正之儀朱書  
ノ通及指令候條此旨爲心得相達候事

別紙

内務省伺 同八年一月  
二十一日

東京府下古着古鐵渡世ノ者結社規則改正ノ儀昨七年御  
達ノ旨有之候處第三條ハ實際差支ノ筋有之ニ付別紙ノ  
通更ニ改正相成度旨警視廳申出候右ハ兩替屋ニ於テ贖  
札贖金ト見受ル時速ニ巡查屯所へ届出候ハ、本犯搜索

ノ一助トモ可相成儀ニ付書面ノ通改正相成候方可然且  
又社ヲ結フノ規則中第六則ノ但書ニ其一家ヲ成サスシ  
テ云々ノ文ハ昨七年改正ノ節掲示條款第十一條へ新ニ  
掲示相成候事ニ付孰レカ一方ニテ足リ可申就テハ此但  
書並第五條第六條中ニ有之番人ノ字ハ當時番人無之事  
故孰レモ刪除相成可然依テハ右各條別紙ノ通御改正相  
成候様致度書類相添此段相伺候早々御裁決可被下候也

別紙

社ヲ結フノ規則

第六則 紙屑屋ハ同業ニテ社ヲ結フヘシ 但書全  
文刪除

掲示條款

第三條 兩替屋ハ替主所持ノ分贖札贖金ト見受ルキハ  
其旨ヲ申聞速ニ巡查屯所へ届出ヘシ又ハ古金銀及ヒ

身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必証人ヲ立サ  
 セ兩判ヲ取置クヘシ改正達第百二十四條參看  
 第五條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定メクル物ヲ典  
 賣スル者アラハ留メ置巡査又ハ其屯所ニ訴出ツヘシ  
改正達第百二十四條參看  
 第六條 典賣主又ハ兩替ヘチ頼ム者ヲ怪見受タル時ハ  
 速ニ前同様訴出ヘシ改正達第百二十四條參看  
 警視廳ヨリ内務省へ上申月同七年十二月十八日  
 東京府下古着古鐵等渡世ノ者取締規則條款中改正ノ儀  
 先般御達相成篤ト致披閱候處外條件ハ差支ノ次第無之  
 候〜此第三條ニ至テハ實際取締上ニ付甚差支候筋有之  
 候間別紙掛札朱書ノ通御改正相成候様致度此段上申候  
 也別紙内務省付中第三條

御指令 同八年四月廿八日

伺之趣第六則但書ハ先般刪除ノ儀更ニ相達候第三條  
 第五條第六條ハ伺ノ通以下神奈川縣ノ部ニ載

(第二百二十二條) 明治八年一月二十八日東京府番外達

市在各區

區長戶長

府下各處ニ於テ夜具類其外損料貸ト唱營業ノモノ右ハ  
 今後爲締方兼而結社古着屋ノ部へ附屬鑑札可下渡間區  
 々取調可申出此旨相達候事

但古着屋ニテ兼業ノモノハ相除儀ト可相心得事

(第二百二十三條) 明治八年五月十七日東京府番外達

別紙ノ通内務省ヨリ達有之候間各區無洩可相徇者也

別紙内務省達 同八年五月十五日

其府下古着古鐵等渡世ノ者取締規則中第三條第五條第六條別紙ノ通改正可致此旨相達候事別紙第二百一十一條ト同文ニ付零之

(第二百二十四條) 明治八年十月十日東京府番外達別紙ノ通內務省ヨリ達有之候間各區無洩可相徇也

別紙內務省達同八年八月七日

其府下古着古鐵等渡世ノ者取締規則揭示條款中別紙ノ通改正可致此旨相達候事

第二條 質入主賣主ノ住所姓名ハ兼テ熟知ノ者ト雖モ必詳細帳ヘ記載シ住所姓名等熟知セサル者ハ証人ヲ同道致サセ其兩判ヲ取置ヘシ兩替屋モ金高並兩替ヲ頼ム者ノ住所姓名等ハ同様タルベシ

但証人ハ男女ヲ不論其住所姓名ヲ知ル者ニ限ルベシ

第三條 兩替屋ハ兩替ヲ頼ム者所持ノ分贖札贖金ト見

受ルキハ其旨ヲ申聞速ニ巡查屯所ヘ届出ベシ又ハ古金銀或ハ身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必証人ヲ立サセ兩判ヲ取置ベシ

第五條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定タル物ヲ質入シ又ハ賣ル者アラハ留メ置巡查又ハ其屯所ニ訴出ツベシ

第六條 質入主賣主又ハ兩替ヲ頼ム者ヲ怪敷見受タルキハ速ニ前同様訴出ツベシ  
神奈川縣ノ部

(第二百二十五條) 明治七年十一月二十七日御達

司法省

別紙內務省伺神奈川縣下古衣古鉄等ノ諸商業取締規則



設立ノ儀朱書ノ通及指令且東京府下同商業取締規則掲  
示條款中改正ノ儀別紙ノ通同省へ相達候條此旨可相心  
得事

別紙

内務省伺 同七年五月二十九日

昨六年七月中東京府下古衣古鉄商結社規則御達相成候  
ニ付今般神奈川縣ニ於テモ同様施行致度旨別紙ノ通伺  
出候處第十六則ノ内贓贖金ヲ以支給云々ノ儀ハ縣官限  
リ處分致シ候テハ如何哉ト被存候へ共既ニ當府下へハ  
施行相成候儀ニ付各地方ト雖モ同様右ノ贓贖金ヲ處分  
爲致可然哉此段相伺候也

御指令 同七年十一月二十七日

伺ノ趣聞届候條別冊朱字ノ通改正可致事 別冊規則中  
改正ノ原文

之零

神奈川縣ヨリ内務省へ伺 同七年五月十七日

賊品搜索取締向ノ儀従前ノ仕來モ有之候得共目今東京  
府等申合セ互ニ應援取締相付候様取計候ニ付而ハ一ト  
際便利ノ方法相設テ搜索品迅速取調行届候様致シ度右  
ハ六年七月中東京府下へ御施行相成候古衣古金等渡世  
ノ者共結社ノ御規則モ有之候儀ニ付大凡右振合ニ基キ  
別紙規則ノ通當縣於テモ執行申度此段相伺申候也

別冊規則

今般盜品並遺失品搜索便利ノ爲メ左ノ商業ノ者夫々規  
則相立候事

一 質屋

一 古衣類商賈

- 一 古銅鐵金銀類商賈
- 一 古道具類商賈 附 古本商賈
- 一 兩替屋
- 一 紙屑屋

社ヲ結フノ規則

第一則 各商共番組毎同業ニテ社ヲ結フヘシ尤質屋之儀者追々聞届置ク規則ヲ確守シ新タニ社ヲ結フニ不及ト雖モ則中第七則ハ書末鑑札ノ廉ヲ除キ其他十一則及十四則ヨリ十九則ノ趣相辨行事ハ毎社ノ頭取ニ換ルモノト相心得可シ右質屋ヲ除クノ外者其同商ノ多寡ニ隨ヒ毎組ニ兩社或ニ隣組ニ亘リ一社トスルノ類其適宜ニ任セ毎社人撰シテ頭取一人或ハ數人ヲ置キ取締ヲ爲ス可シ

第二則 古衣類商賈ハ從前ノ古着屋古着買西洋服ノ古ル品等ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フ可シ

第三則 古銅鐵金銀類商賈ハ從前ノ唐物屋小道具屋古鉄買並ニ潰シ金銀地金賣買時計屋袋物屋刀劍類ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フ可シ

第四則 古道具類商賈ハ從前ノ雜道具屋大道具西洋靴傘等ノ古ル器ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フヘシ

第五則 紙屑屋ハ同業ニテ社ヲ結フ可シ

第六則 從來商業ノ者又ハ新ニ其商業ヲ營ム者悉皆當應ノ鑑札相受所持致ス可シ

但鑑札相請候節鑑札料金五拾錢上納イタヌ可シ

第七則 各社毎ニ名前帳三冊ヲ制シ商業並住所本籍寄留姓名年齢等ヲ記シ銘々印形ヲ押シ番組戸長ヘ差出

スヘシ戸長ハ一冊ヲ有シ二冊ハ區長ヘ出シ區長ハ一冊ヲ有シ一冊ハ區内ノ分悉皆取纏メ縣廳ヘ差出ス可シ若シ移住シ従前ノ業ヲ營ミ又ハ新加入改業病死等其時々届出可シ廢業病死管外ヘ轉住等ハ鑑札返上管内移轉ノ者ハ書換申出ヘシ但名前帳ヲ製スル等ハ其社頭取ノ任タルヘシ

第八則 新ニ入社致ス者ヨリ入社金ヲ出サセ又ハ飲食其他ノ入費ヲ相懸ル等ノ事相成ラス

第九則 商社頭取手数料等ハ社中熟議ノ上相當申出差圖相受ク可シ

第十則 總テ商業取リ引ノ帳簿者兼テ御布告ノ通印紙ヲ貼付シ右簿中ヘ物品及兼テ熟知ノ者トイヘトモ取リ引人ノ住所姓名等詳細記載スヘシ

第十一則 銘々品觸寫帳ヲ製シ置キ品觸アラハ之ヲ詳細記ス可シ

第十二則 典賣主ノ住所熟知セサル者ト物品取引スル時ハ必ス住所姓名ヲ知ルモノ一員証人ニ相立テ取引イタシ簿中ヘ証人ノ住所姓名ヲモ記載スヘシ但証人ハ男女ヲ不論其住所姓名ヲ知ル者ニ限ル可シ

第十三則 兩替屋ハ替主所持ノ品價札價金ト見受ル時ハ其旨ヲ申聞引替ヲ斷ハルヘシ且身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必証人ヲ立サセ兩判ヲ取り置ク可シ改正達第二百六條參看

第十四則 官廳ノ印アル品或者官品ト見定メタル物ヲ典賣スル者アラハ留メ置立番邏卒又ハ其屯營等ニ訴

出可シ 改正達第二百二十六條參看

第十五則 典賣主又者兩替ヲ頼ム者ヲ怪シク見受タル時ハ前同様訴出可シ

第十六則 不正品ト心付キ品觸ヲ待タス速ニ訴出タル者ハ他日不正タル事相顯レシ節詮議ノ上其全價ヲ下ケ與フ可シ

品觸アリテ速ニ訴出タル者ハ原價十分ノ八分ヲ下ケ與フ可シ若シ其者不正ノ處業有之キハ相當ノ處分アルヘシ

但シ右下ケ渡シ代價ハ裁判所ニ於テ贖贖金ヲ以テ給與ス可シ

第十七則 總テ商賈ハ店頭ニ看板ヲ掲ケ置ク可シ尤行商ハ腰ニ鑑札ヲ帶フ可シ

第十八則 品觸ノ節品觸寫シ帳ニ記載シタル似寄リノ

物アラハ速ニ順序ヲ經テ縣廳へ訴へ出へシ

第十九則 街衢途上郊路等ニ於テ身元慥ナラサル者及

ヒ同商業ト雖モ無鑑札ノ者ヨリ物品ヲ買取ヘカラス

第二十則 古着買古鉄買紙屑買其一家ヲ成サステ買

廻ル者ハ古着屋唐物屋紙屑屋等各其同商ノ買子或ハ

雇丁トシテ鑑札ニ何某買子或ハ雇丁何某ト記シ所持

セシムヘシ

右之通確守可致事

(第二百二十六條) 明治八年四月二十八日御達

司 法 省

今般内務省伺古着古鉄渡世ノ者結社規則改正ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨爲心得相達候事

内務省 伺書 東京府ノ部ニ載ス  
御指令 同八年四月 第二百一十一條 參看

前 神奈川縣古着古鉄渡世ノ者結社規則中左ノ通改正  
可爲致事

第十三則 兩替屋ハ替主所持ノ品價札價金ト見受ル時

ハ其旨ヲ申聞速ニ巡查屯所へ届出ヘシ又ハ古金銀及

ヒ身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必ス証人ヲ

立サセ兩判ヲ取置ヘシ

第十四則 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定タル物ヲ典

賣スル者アラハ留置巡查或ハ其屯所へ訴出ヘシ

埼玉縣ノ部

(第二百二十七條) 明治八年五月 日不本省達

大 審 院

各裁判所

埼玉縣古着古鉄等商業取締ニ付贓贖金遣拂等ノ儀別紙  
ノ通御達相成候條此旨爲心得相達候事

別紙

御達 同八年五月 十二月 日

別紙内務省伺埼玉縣古着古鉄等ノ商業取締ニ付贓贖金  
遣拂等ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨可相心得事

内務省 伺 同八年三月 三十一日

東京府下古着其他商業結社規則ニ倣ラヒ埼玉縣ニ於テ  
モ右規則施行致度旨並ニ掲示條款中第七條但書贓贖金  
ヲ以給ス云々ノ件ニ付別紙ノ通申出候所都テ府下ノ規  
則ニ原キ取調候事ニテ既ニ類例有之儀ニ付其節贓贖金  
ノ件ヲ除其他ノ各則ハ聞届置申候然ル處同伴ニ付神奈

川縣伺へ昨七年御指揮相成候趣モ有之ニ付該縣ノ規則  
尙又掛紙ノ通文言可相改旨更ニ相達候就テハ贓贖金ヲ  
以給與云々ハ裁判所ニ於テ取計候事ニ付心得ノ爲メ其  
段司法省へ御達相成候様致度則書類相添此段上陳候也  
別紙規則中改  
正ノ原文畧之

但以後如本文規則設置伺出候府縣有之贓贖金處分之  
儀共聞届候節ハ其旨當省ヨリ直チニ司法省へ通知ニ  
及候様致度且又裁判所無之地ニ於テ前文ノ節ハ贓贖  
金ヲ以給與ノ儀於地方官ニ處分致候儀モ聞届申度尤  
其都度司法省へ通知ニ可及ト存候此段併テ相伺候也

埼玉縣ヨリ内務省へ伺同七年六月九日

府下賊品搜索ノ爲メ古着古金等渡世ノ者結社取締規則  
御取設去明治六年七月中太政官ヨリ東京府へ御達相成

同府於テハ警保察へ打合既ニ施行ニ及ヒ候處賊徒其隙  
ヲ偵ヒ現品ヲ以テ其位置ヲ交換シ譬へハ甲ノ地ニ盜メ  
ハ乙ノ地ニ賣リ遂ニ取締不立趣ヲ以互ニ管地ノ紛失品  
ハ必報知應援シテ同一ニ取締相付度段警視廳ヨリ右規  
則寫相添此程打合セ有之於當縣モ施行致度就テハ御規  
則掲示條款第七條但シ書ノ中全價ヲ下ケ與フルハ盜マ  
レ主ヨリ十分ノ四分ヲ出サシメ官ヨリ贓贖金ノ内ヲ以  
テ六分ヲ給ス云々ト有之就テハ本年三月中違式註違施  
行方ノ儀ニ付贖金仕拂ノ个條モ加へ相伺候處警保察ニ  
リ同四月廿五日右个條ノ御指令ニハ贖金ヲ仕拂ニ差向  
ケ候儀難相成明治六年太政官布告十九號第五百三十ニ  
照準シテ處分可然ト有之右ハ全ク選卒月給其他諸入費  
即今民費モ多端ノ折柄ニ付聊タリヒ減少ノ爲相伺候儀

ニ候處今般前書古着古金等商業ノ者結社御規則警視廳ニ準シ別冊ノ通り施行致シ度御許可相成候ハ、右贖金縣廳ニ於テ別途ニ備置前條揭示條款第七條但シ書等ニノミ給與仕拂追テ精算ノ上其筋へ申立候様仕度此段相伺候間至急御指令被下度相願候以上

古着其他商業結社取締規則

今般盜品並遺失品搜索便利ノ爲左ノ商業ノ者規則相設候ニ就テハ後來ヲ慮リ苟モ粗畧ノ事アルヘカラス遂ニ粗漏手違ヨリ一身ニ於テ其咎ヲ受ル等ノ事相生候ニ付能々注意會得致スヘシ

- 一 質屋古衣類商賈
- 一 古銅鉄金銀類商賈
- 一 古道具類商賈 附 古本商賈

- 一 兩替屋
- 一 紙屑屋

社ヲ結フノ規則

第一則 各商共每區内ニ社ヲ結フヘシ共同商ノ多寡ニ隨ヒ每區内兩社或ハ隣區ニ亘リ一社トスルノ類其適宜ニ任セ一社毎ニ身元慥ナル者人撰シテ頭取一人或ハ數人ヲ置取締ヲ爲サシムヘシ  
但シ隣區ニ亘リ一社トスルノ類ハ譬へハ甲ノ區ニアリテ乙ノ區ニ入社スルキハ町村限リ戸長等ニテ取締ヲナサシムヘシ

- 第二則 質屋兩替屋古衣類商賈ハ從前ノ古着買西洋服其外古品等ヲ取扱フ者ヲ編入シテ社ヲ結フヘシ
- 第三則 古銅鉄金銀類商賈古道具屋雜道具古鉄買並潰

シ金銀地金賣買紙屑買古本屋西洋靴傘等ノ古器ヲ取  
扱フ者ヲ編入シ社ヲ結フヘシ

但其一家ヲ成サスシテ紙屑ヲ買廻リ身元儘ナラサ  
ル者ハ紙屑屋ノ買子或ハ雇丁トナシ鑑札ニ何某買  
子ト記シ所持セシムヘシ

第四則 從來商業ノ者又ハ新クニ其商業ヲ營ムモノ悉  
皆其地方廳ノ鑑札所持セシムヘシ

但シ無鑑札ニテ此規則ニ關スル商業ヲ營ムモノア  
ラハ其社頭取ニ於テ速ニ取調申出ヘシ

第五則 各社毎ニ名前帳二冊ヲ製シ商業並住所本籍寄  
留姓名年齢等ヲ記シ銘々印形ヲ押シ其社頭取ヘ差出  
スヘシ頭取ハ一冊ヲ有シ一冊ハ警察ニ附シ若シ移住  
シ從前ノ業ヲ營ムモノ鑑札名前帳トモ相改メ又ハ新

加入改業病死等其時々届出ヘシ

但シ名前帳ヲ製スル等ハ其社頭取ノ任タルヘシ

第六則 新クニ入社致ス者ヨリ入金又ハ飲食其他ノ  
入費等ヲ禁ス且ツ種々ノ名目ヲ唱ヒ無謂一社中宴席  
ヲ設クル等ノ事有之ニ於テハ弊害ヲ生不取締ノ基ニ  
候頭取專ラ注意スヘシ

第七則 鑑札料商社頭取手数料等ノ入費ハ戸長等ニテ  
取調フヘシ不相當ノ儀不相成

掲示條款

第一條 銘々明細帳ヲ製シ其社頭取ノ押切判ヲ取り紙  
數ヲ記シ置キ其商業取引人ノ住所姓名物品等總テ此  
帳ニ記載スヘシ且又品觸寫帳ヲ製シ置キ品觸アラハ  
詳細ニ記スヘシ



但シ品觸寫帳ハ戸長頭取ノ押切判ニ及ハス  
 第二條 典賣主ノ住所姓名ハ兼テ熟知ノ者ト雖モ必詳細ニ明細帳ニ記載シ當人ノ一判ヲ取置クヘシ若シ住所姓名等ヲ熟知セサル者ハ証人ヲ同道致サセ其兩判ヲ取置クヘシ  
 但シ証人ハ男女ヲ不論其住所姓名ヲ知ル者ニ限ル  
 第三條 兩替屋ハ替主所持ノ分贖札贖金ト見請タルキハ其旨ヲ申聞引替ヲ斷ハルヘシ且身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ必証人ヲ立サセ兩判ヲ取置クヘシ  
 第四條 同商ニテ鑑札所持ノ者ト賣買ハ一判ニテ然ルヘシ

第五條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定メタル物ヲ典賣スル者アラハ留メ置キ事務所或ハ警察附属詰所ヘ届出ヘシ  
 第六條 典賣主又ハ兩替ヲ頼ムモノヲ怪シク見受タルキハ事務所或ハ警察附属詰所ヘ届出ヘシ  
 第七條 不正品ト心付品觸ヲ不待速ニ訴出タル者ハ他日不正タルト相顯レシ節詮議ノ上其全價ヲ下ケ與フヘシ  
 品觸アリテ速ニ訴出タル者ハ原價十分ノ八分ヲ下ケ與フ可シ若シ其者不正ノ所業有之キハ相當ノ處分アルヘシ  
 但シ右下ケ渡シ代價ハ裁判所ニ於テ贖金ヲ以テ給與ス可シ

第八條 居商ハ店頭ニ看板ヲ掲ケ置クヘシ行商ハ腰ニ

鑑札ヲ帶フヘシ  
第九條 鑑札ヲ遺失スル者及ヒ遺失セル鑑札ヲ拾ヒ得  
ルモノハ直ニ届ケ出ヘシ

第十條 品觸ノ節品觸寫シ帳ニ記載シタル似寄リノ物  
アラハ速ニ順序ヲ經テ縣廳ヘ訴出可シ

第十一條 街衢途上郊路等ニ於テ身元慥ナラサル者及

ヒ同商業ト雖モ無鑑札ノ者ヨリ物品ヲ買取ヘカラス

第十二條 古着買古鐵買紙屑買其一家ヲ成サスシテ買

廻ル者ハ古着屋唐物屋紙屑屋等各其同商ノ買子或ハ

雇丁トシ鑑札ニ何某買子或ハ雇丁何某ト記シ所持セ

シムヘシ

但シ各其商業外ノ品物ヲ買取ルヘカラス

御指令 同八年五  
月十二日

伺ノ通

但向後各地方ヨリ申出聞届候節ハ其都度大藏省ヘ  
モ可及通達事

古着古鉄等賣買規則附録

(第二百二十八條) 明治七年第五十七號三月十八日指令東  
京裁判所伺

今般東京府下古着古金等渡世ノ者取締規則被定候ニ付  
テハ裁判上ニ於テ右規則掲前條款ニ觸候モノハ無論違  
令ニ處シ可然哉又ハ別段罰則等被設候哉

指令

追テ罰則被相定候迄違式ヲ以テ處斷スヘキ事

一七五  
(第二百二十九條) 明治七年第五十八號三月二十日指令東

京裁判所伺

盜賊等買取シ轉賣或ハ費用セシ者代價追徴方法ノ儀此  
程相伺候處昨十三日御指令有之然ルニ東京府下古着古  
金等渡世ノ者取締上討則ノ儀客歲十月廿九日相伺置候  
處于今御指令無之候得共右取締規則被定候渡世向己ニ  
其規則ヲ背ク者ハ賣却代等取上可然哉

但輾轉賣買セシ者何レモ規則ヲ背ク上ハ右代價各自  
ニ取上可然哉

典舖ニテモ典買ノ物品流質ニ成リ或ハ典賣主受戻ス分  
モ其規則違犯ノ者ハ右代價取上可然哉

指令

兩條共規則ニ背クト雖モ不正品ニ非レハ賣却代等取  
上クルニ及ハス但盜賊等不正品ニ係ル者ハ追徴方法

ニ依テ處分スヘシ  
前文ノ如キハ何レモ買フ者ノ討ニ付牙保アリト雖モ追  
償ハ申付間舖哉

指令

不正品ニアラサレハ牙保罪ノ論スヘキナシ

右渡世筋ノ者取締規則ハ當府下ニ限リ候儀故假令ハ接  
近ノ神奈川縣下ノ商賈等ハ唯常人ト見做シ右規則ニハ  
不拘筋ト相心得可然哉

指令

伺之通

(第二百三十條) 明治八年一月十七日指令東京裁判所伺

七年日誌第六十六號兵庫裁判所伺指令ニ盜賊タルノ情  
ヲ知ラス判金ヲ兌換スルニ判金兌換ノ手ニ現在スト雖

盜犯金ヲ還付スルニ非レハ直チニ追徴スルコトヲ得ス若シ盜犯ヲ捕獲スルニ賠償ス可キ資力ナケレハ事主ノ損失ト爲スト有之然ル處當府下兩替屋等取締規則掲示條款內第三條ニ古金銀或ハ身分不相應ノ金銀ヲ兩替スルモノアラハ必ス證人ヲ立サセ兩判ヲ取り置ク可シトアリ因テ其規則ヲ背カサル者追徴ノ方法ハ上文兵庫裁判所御指令ニ照依シ異論ナシト雖モ其規則ヲ背キ兌換スル者ニ至テハ古着古金渡世質屋等ト同ク其規則ヲ背クノ罪ヲ問ハサルヲ得ス然ルニ質屋等ニ於テ其盜賊ニ係ル物品現在スレハ盜犯資力ナシト雖モ必ス追徴スルニ特リ兩替屋耳ハ追徴セサル儀ニ可有之哉

指令

掲示條款ニ背ヒテ兌換スル者ハ例第百五十七條牙保

ナクシテ典賣スル者ト同シク追徴スヘシ  
右取締規則掲示條款第二條ニ典賣主ノ住所姓名ハ兼テ熟知ノ者ト雖モ必詳細ニ明細帳ニ記載シ當人ノ一判ヲ取り置ク可シ若シ住所姓名等ヲ熟知セサル者ハ証人ヲ同道致サセ其兩判ヲ取り置クヘシ兩替屋モ金高並替主ノ姓名住所等ハ同様タルヘシト有之右兩替屋ハ假令五錢十錢ノ兩換スル者ハ一判或ハ兩判ヲ取ル儀ナル手又ハ止テ金高姓名等記載スル迄ニテ捺印スルニハ及ハサル儀ニ候哉

指令

金高姓名等記載スル迄ニテ捺印スルニ及ハサルモノトス

同第七條ニ不正品ト心付キ品觸ヲ待タズ或ハ品觸アリ

テ訴出ル者全價又ハ原價十分ノ三分ヲ與フルト有之ハ  
全ク規則ニ背カス典買スル者ニテ無判ノ者ニ至リテハ  
訴出ル共自首ト同視シ其罪ハ免スト雖モ己ニ右條ニ詮  
議ノ上或ハ時宜ニヨリ等ノ文意モ有之上ハ原價ハ給與  
セザル儀ト相心得可然乎

指令

伺之通

(第二百三十一條) 明治八年第二十九號二月四日指令東京  
裁判所伺

府下古着古金等渡世ノ者取締規則掲前條款第七條不正  
品ト心付キ品觸ヲ待タス或ハ品觸アリテ訴出ル者素規  
則ヲ背キ無判ニテ典買買取スル者ト雖モ則訴出ル上ハ  
自首ト同視シ其罪ヲ免シ原價ハ給セサル儀ニ有之哉ノ

旨昨七年九月二十九日附ヲ以テ相伺候處一昨十七日伺  
ノ通ト御指令有之然ルニ同十一月右掲前條款中改正ニ  
テ已ニ右七條モ品觸アリテ速ニ訴出タル者ハ原價十分  
ノ八分ヲ下ケ與フヘシ若シ其不正ノ所業有之トキハ相  
當ノ所分アルヘシト改正相成然レハ上文ノ如ク規則ヲ  
背キ無判ニテ典買或ハ買取シ後ヲ不正ト心付又ハ品觸  
有之訴出ル者モ右改正ノ如ク其價ハ給スト雖モ無判ノ  
廉ハ則不正ノ所業ト見做シ其罪ハ免サル、儀ト可心得  
哉又前書伺ノ通首免ヲ與ヘ可申哉

指令

品觸アリテ速ニ訴出ル者不正ノ處業無之ニ於テハ原  
價十分ノ八分ヲ下付スヘシ若シ不正ノ處業有之トキ  
ハ訴出ルヲ以テ首免ヲ與フト雖モ其價ヲ給セス

諸規則罰例全書第六  
○日本坑法  
明治五年三月二十七日第百號御達  
府 縣

諸規則罰例全書第六

○日本坑法

(第二百三十二條) 明治五年三月二十七日第百號御達

府 縣

鑛山稼方ノ儀辛未四月御布告モ有之候得共國民鑛物ノ  
分義ヲ不相辨候テハ公私ノ別不相立自然心得違ノ者モ  
可有之ニ付今般別紙心得書相添改テ令布告候條此旨厚  
ク可相心得候事 改定布告第二百  
三十三條參看

鑛山心得

凡鑛山ノ事ニ關ル者ハ第一ニ鑛物ノ何物タルヲ知ルヲ  
要ス都テ無機物生活ヲ云キノ品類之ヲ鑛物トナス此無機  
物ニ二種アリ一ヲ有鑛質テ金銀銅鐵鉛錫其他ト云ヒ  
一ヲ無鑛質屬ヲ炭硫黃岩鹽玉ノ如キ金ト云ミテ鑛物ニア

ラサルハナシ然シテ此鑛物ナルモノ都テ政府ノ所有ト  
ス故ニ獨リ政府ノミ之ヲ開採スル分義アリトス故ニ何  
レノ鑛山ヲ論セス其地面ハ地主ニ屬スト雖モ其地ニ在  
ル所ノ鑛物ハ其地表ニ現ハル、ト地底ニ在ルトヲ論セ  
スミナ政府ノ所有物ニシテ地主ノ私有ニ非ス此義判然  
識別セスノハアルヘカラス

但尋常土石ノ如キハ必シモ鑛物中ニ比數スルヲ要セ  
ス故ニ其地主ノ自儘ニ開採スルニ任ス  
上條ニ述ル如ク鑛物ハ皆政府ノ所有タリ故ニ諸府縣管  
轄下ニ於テ國民ノ開採セルモノハ悉政府ヨリノ請負稼  
ニ非ルコトナシ因テ請負ノ鑛山ヲ以テ私ニ借金ノ質物  
トスルハ決テアルヘカヲサル理ナリ  
但請負年限中ノ稼方ヲ引讓ヘキ目的ヲ以金銀借貸ヲ

ナス者ハ前以地方官ノ證印ヲ受クヘシ若地方官ノ證  
印ナキ時ハ後日訴訟起ルトモ一切鑛山ニ關係セサル  
モノトス

外國人へ借金ノ引當ニ請負鑛山ノ稼方ヲ讓ルコトハ決テ  
不相成候事

鑛山ニ西洋器械ヲ据付或ハ西洋技術方ヲ雇入ル、時ハ  
前以當省ノ許可ヲ受ヘシ

但雇入レ西洋人ハ技術方ニ限ルヘキ事  
毎年七月十二月兩度ニ半年間ノ鑛産高並代價等別紙比  
較表ニ倣ヒ當省へ届出ヘシ

但上納高ヲ減センカ爲メ鑛産高或ハ代價ヲ詐ル時ハ  
請負稼差止メ鑛山ハ勿論鑛山ニ有ル器械物具等一切  
取アツヘキ事

右之通厚ノ可相心得候尤従前國民相稼居候鑛山ノ内開鑛起業ノ頓末判然クラサル向モ有之哉ニ付従前免許ノ書類並山税冥加永等上納致シ來候向ハ手續共委細地方官ニテ取調來ル六月限當省へ可届出候事

但願濟相成居候分モ試堀中ハ鑛物ヲ賣却スルコヲ禁ス且稼方年限未定ノ分ハ改テ當省ヨリ可申渡候舊迹ノ廢山未開ノ新山等は亦地方官ニテ取調來ル六月限當省へ可届出候其中至急開山有益ノ見込有之候場所ハ見込書相添可差出候且右等ノ場所請負稼申付候テ其任ニ堪ユへキ者有之候ハ、其節姓名戶籍等當省へ申出置候様可致候然ル時ハ追テ點檢ノ上請負稼申付候儀可有之候事

壬申三月  
工 部 省

三八五  
第三十三條 明治六年七月二十日第二百五十九號御

庚午 辛未

壬申 正月 三月

郡名	地名	地主	稼主	開山	休山
何郡	何村何山	官地 誰持	縣廳 誰請負	何年	何年
何程	何程	戶籍身分	戶籍身分	何年	何年
何程	何程	賣	代價	殘品	入費
何程	何程	何々何程	何々何程	何々何程	何程
何程	何程	何々何程	何程	何程	何程
何程	何程	何々何程	何程	何程	何程

何國何府縣  
紙中ニ顯ス金分銀分等ノ爲ニ設ケル横系ハ一金  
分銀一分ニ限ラズ其物類ノ品數ヲ横系ヲ設ケ凡金  
系ニハ出品ノ記載スル石炭硫黃ノ如キ雜質ナ  
キ品ハ出鑛ノ系ニ直ニ何々何程ト記載スヘシ



今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省へ可申立候此旨布告候事

別冊 日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルキハ凡無機物タル者ハ生活ノ諸物都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本資ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽磷酸石灰美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鑛質無鑛質トモ之區坑産等皆

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨政府ノミコレヲ採用スル分義アリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルコトヲ得スル坑業ノ割合及損益ニ關係トス若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償金ヲ對  
 談處分スヘシ  
 地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘ  
 キ分義アリトス然レモ自ラ試堀ノ資本無クシテ他人  
 ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ鑛山寮或ハ地方  
 官ニテ正償ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ  
 第六 試堀ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山  
 寮ニ届出ツ可シ且試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ  
 月間ノ行業日數及工數並產鑛量ヲ開報ス可シ  
 凡產鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却  
 スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收スヘシ  
 第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出  
 ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヲ得サル事理判然タラ

ハ之ヲ許可スルヲ有ル可シ  
 第八 試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クス  
 ヘシ  
 此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款  
 ノ坑物税ヲ納ムヘシ  
 試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑  
 物税ヲ免スルヲアルヘシ  
 第三章 借區開坑  
 第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其  
 適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ得ヒシムヘシ  
 有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ凡借區  
 開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑  
 區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ

試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後二十二年款ノ如クナルヘシ

第十 願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ

巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別一ノ道ノ大坑ヲ穿ツア我カ借區中ニ非スト雖モ之ヲ企ルコトヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山

寮へ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ通洞ハ高九尺幅六尺ニリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ免狀ヲ附與ス可シ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮へ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中タリト雖モ他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ堀入ルヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラシムル者ハ此限ニ非

ス是ハ坑物ヲ得ノカ爲ニ一旦  
土石ヲ堀出スルノ如キ是也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞  
發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナ  
ラスハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍  
内ヨリ出ルタケノ礫石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區  
中ニ於テハ此礫石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存ス  
可キ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スコトナク取出スヘシ此  
法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ  
隨テ罰金ヲ徵スヘシ

第十七 試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流

及道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ  
殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ凡場所ノ主タ  
ル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其  
律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本  
費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見  
出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑  
物又ハ代價ヲ取揚クヘシ  
如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ  
例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ  
産出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具  
記シテ鑛山寮ニ報知ス可シ

有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試験ノ割合ヲシ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ  
右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收ス可シ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止ス

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通

セソヲテ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可ラス若相對テ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ  
右堀通シニ付テ出ル礦石ハ其所ノ借區人ニ届スヘシ  
第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗鑛所鑛鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若シ異論決セスンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ルヘシ  
第二十三 總テ坑區ヨリ鄰區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ双方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止  
 セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者アレハ都テ其借區  
 ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖  
 モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中  
 ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ  
 地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其趾ノ地面  
 ハ完全ニ修復ヲナスヘシ  
 第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其  
 地方官ノ諸法令ヲ遵守スヘシ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ  
 又柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセ  
 シヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若疎

漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ  
 徵收スヘシ

第二十八 鑛山寮ヨリ疎水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行  
 ハス之カ爲ニ坑中廢沒スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出  
 セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可ヲ請  
 フヘシ

第三十 己ニ製煉セシ鑛物ヲ精製荒銅ヲ丁銅棹銅ニ製  
 スル類スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月  
 毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘ  
 シ

第八章 稅納 第二百三十 六條參看

第三十一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面  
積五百坪毎ニ一ケ年金一圓ツ、借區稅トシテ毎年一  
月ニ前一年分ヲ鑛山寮ニ納ムヘシ、借區稅ハ地租鐵及  
ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前  
條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス  
廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム  
ヘシ  
開坑區面五百坪廢鑛區面千坪トニ足サルモノハ總テ  
右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ  
借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムヘシ  
前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價  
百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ每歲一月  
七月兩度ニ鑛山寮ニ納ムヘシ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命ス  
ヘシ

第三十二 試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記  
セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルキ其業ニ屬スル所  
ノ運移スヘキモノ殘ラス鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代  
價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付  
スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨  
テ罰金ヲ命スヘシ若事業疎畧ニシテ人命ヲ失ハ、國  
律ヲ以テ論處スヘシ  
右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行ス  
ヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都  
テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒ  
ンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ル、カ如  
キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事無キニ因テ坑  
法第四款ノ禁ニ觸レヌ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業  
給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮へ送呈シテ  
結約ノ許可ヲ可請候事

書類式様

表面ニ 試堀願

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某

試堀願

私儀某縣管下某國某地ニ於テ何礦ヲ堀得ヘシ覺候故先  
試堀仕度候間御聞届被下度奉願候以上  
年號月日 某縣貫籍某國某郡某村某職業  
某 印

前書願出之趣御聞届相成度候也

年號月日

縣令某印

試堀人ニ與ル証

某縣某地某位置誰地ニ於テ某貫籍某職業某何礦試堀願  
之通聞届候尤日本坑法ニ違反致問鋪者也  
年號月日 鑛山寮印

表面ニ 借區開坑願

某縣貫籍某國某郡某村某職業  
某



借區開坑願

私儀某年月某地ニ於テ試堀相願候處何礦發見イタシ後又  
來何礦ヲ堀出ス候ニ付別紙圖面ノ場所ニ於テ借區開坑  
被差許度此段奉願候以上

年號月日

某縣貫籍某國某郡某村某職業  
某 印

前書願出之通御聞届相成度候也

年號月日

縣令某印

借區券

某年月某地幾方面某貫籍某職業某某境界云々之場所ニ  
於テ別紙圖面之通十五ヶ年間借區開坑差許候尤日本坑  
法ヲ確奉可致者也

年號月日

工部全權某印

表面ニ 通洞願

某縣貫籍某國某郡某村某職業  
某

通洞願

私儀ハ疎水運輸或通洞堀通シ度右通洞別紙圖面之某場所  
ニ有之候尤通洞ノ地位ニ當リ候借區ノ主某ニ報知仕置  
候右通洞堀方御聞届被下度奉願候以上

年號月日

某縣貫籍某國某郡某村某職業  
某 印

前書之通御聞届相成度候也

年號月日

某縣令某印

通洞券

某年月願出候某貫籍某職業某某地ニ於テ別紙圖面ノ通  
通洞堀通候事差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

年號月日

工部全權某印

(第二百三十四條) 明治六年七月二十八日第二百五十九號

御布告

日本坑法第一章天然本資ハ本質ノ誤リニ候條此旨更ニ  
布告候事

(第二百三十五條) 明治七年十一月十日第二百二十四號御布

告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲  
載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ  
受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金  
子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候

事

(第二百三十六條) 明治八年一月十三日第二號御布告

明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法第八章中ニ掲  
載有之候坑物稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ内相廢シ  
候條此旨布告候事

日本坑法附錄

(第二百三十七條) 明治八年第九十五號十二月九日指令三

重縣伺

坑法規則ヲ犯ス者其得タル坑物ハ官ニ沒入シ而シテ鑛  
山寮ニ引渡シ可然乎ニ候ヘヒ今政府ノ許可ヲ得ス石炭  
ヲ試堀スル者アリ罰例明文ナキヲ以テ止々其規則ニ違  
フヲ責メ違式ニ問ヒ己ニ堀得タル石炭ハ政府ノ所有タ  
ルヲ以テ官沒ノ旨申渡シ候就テハ右違式罪ニ係ル者ノ

如キハ前文坑法規則ニ照シ罰スル者ト其名義ヲ異ニス  
故ニ没官ノ石炭ハ脏物ト看做シ賣却ノ上代價ヲ以テ御  
省へ相納メ可然哉

指令

伺ノ趣明治七年第四十二號公布ノ通可相心得事

○鐵道規則

(第二百三十八條) 明治五年壬申二月二十八日第六十一號

御達

今般東京横濱ノ間鐵道建築落成不日運轉相開候ニ付別  
紙畧則ノ通相定候條此旨相達候事 改正達第二百  
但開局日限追テ治定ノ上可相達事 三十九條參看  
紙別鐵道畧則

第一條 賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃  
金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決テ列車ニ乗ル  
可ラス

第二條 手形檢査及渡方ノ事

手形檢査掛ノ者來ラハ手形ヲ出シ改メヲ受ケ又手形取  
集ノ者來ラハ之ヲ渡ス可シ右檢査ノ節手形ヲ出サス及  
渡方ノ時ニ手形ヲ渡サ、ル者ハ更ニ最初發車ノ「ステ  
シヨ」<sup>ン</sup>「ス」<sup>テ</sup>「リ」<sup>ス</sup>ト下リ荷物ノ積ミ下ロシヲ爲ス所ヲ云フ 乗  
ノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確  
証判然タル時ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシム  
ヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組並手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ  
乗リ組ムヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取シ總人數ヲ容ル  
ヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ  
人丈ケ先ツ乗込ムヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク  
客數人アル時ハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以乗ルヲ得ヘ  
シ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ  
遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラスシテ  
更ニ上等ノ車ニ乗リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ  
過キ増賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ  
免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所  
ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ルヲ肯セス又ハ其外如何

ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨  
テ罰スヘシ

第五條 列車運動中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運動中ニ出入スルヲ又ハ車内旅客ノ居  
ヘキ場所ノ外ニ乗ルヲ禁ス

第六條 疱瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

疱瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人  
車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外並鐵道  
構外ニ退去セシムヘシ

第七條 吸煙並婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構内別段吸煙ノ爲メニ設ケ  
シ場所ノ外又ハ吸煙ノ爲メ設ケ車ヨリ他ノ車内ニテ吸  
煙スルヲ許サス且婦人ノ爲メニ設ケアル車及部屋等ニ

男子妄リニ立入ルヲ禁ス若右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ  
戒メヲ用ヒサル者ハ車外并鐵道構外ニ直ニ退去セシメ  
且拂タル賃金ヲモ取上クヘシ

第八條 醉人不法人扱方ノ事

何人ニ限ラス總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」并鐵  
道構内ニテ醉態ヲ現ハシ又ハ其他ノ不法ヲ行フ者ハ鐵  
道掛リノ者ヨリ車外及鐵道構外へ直ニ退去セシメ且拂  
タル賃金ヲモ取上ヘシ

第九條 鐵道ニ属スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ限ラス浪リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識  
掲示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取  
除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其  
他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ惡意ノ所爲ト過失

トヲ論セス都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等へ乗込ヲ禁スルノ事

機關方并火夫ノ外ハ其筋ノ免許ヲ得スシテ右機關車又  
ハ炭水車ニ乗リ或ハ乗ラント爲ス可ラス且車長及車掛  
ノ者ノ外其筋ノ免許ヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲  
ニ設ケサル車ニ乗リ又ハ乗ラント爲ス可ラス若此禁ヲ  
犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ鐵道構  
外へ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所へ侵入ノ者取扱方ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」又ハ鐵道構内へ侵入シタル  
者ハ鐵道掛リノ者ヨリ即刻構外へ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物ニ關係セサルノ事

旅客所持ノ荷物ハ總テ之カ爲メ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受

取証書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ敢テ之ニ關係セサルヘシ縱令別段ニ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置ヒ其旅客ノ身廻リ着用衣服ノ外荷物ノ内ニアル品ノ紛失毀損等ハ政府ニ於テ敢テ之ニ關係セサルヘシ且着用衣服ト雖モ其價ヒ金五十圓以上ニ過ルコトナシ

第十三條 高金及大切ノ物品紛失ニ關不關アル事

金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定証書金錢請拂証書地所建家沽券諸繪圖書畫金銀玉石鍍金象牙香木雕鐫細工物其餘衣類玩佩物粧飾ニ混作ノ些少ノ品類及硝子器類陶器酒類蠶種繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ

之ヲ價ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルキニ其持主或ハ送り人ヨリ右獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合ハセサル時ハ若シ紛失損害在ト雖モ政府ニ於テ敢テ之ヲ引受ルコトナシ右増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合セシ分ト雖モ馬或ハ牝牛一匹ニ付金五十圓羊或ハ豚一匹ニ付金五圓以上ノ價ハ是亦政府ニ於テ引受ルコトナシ

第十五條 火器等運輸取扱方ノ事

何人ニ限ラズ火器火藥其他危害ノ物品ヲ車中ニ携ルコト許サス若シ獵ニ赴ントス火器ト火藥些少許リヲ持參致シタキ者ハ初ニ之ヲ車長ニ渡シ目途ノ場所ニ着ク迄預

ケ置クヘシ

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事  
鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ前章ニ記セル如キ少量  
ノ火藥ノ運送ノミヲ許スヘシ其他「ヘトロレム」カルサイ  
「ナフツア」チユルベン「グイン」石炭油 硝性及爆發質燃燒  
質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請取リノ度毎  
ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ  
掛リノ者ヘ差出スヘシ

第十八條 物品損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品紛失損害アリト雖モ鐵道掛ノ怠  
惰過失ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ敢テ之ヲ償フコ

ナシ

第十九條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乗車及荷物運  
送ヲ許サ、ルヘシ

第二十條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及取捨アルキハ遍ク告達スヘキ様鐵道頭  
扱ヒアルヘシ

第二十一條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法度局ニ訴ヘ犯罪人罰  
シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間  
ニテ其取扱アルヘシ

第二十二條

旅客并荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革

毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭或ハ鐵道支配方  
及ヒ運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常  
例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ列車ヲ仕立ツヘシ

第二十三條

此規則來ル月日ヨリ施行ス  
右ノ條々此度確定候事

(第二百三十九條) 明治五年壬申五月四日第四百四十六號御  
達

第六十一號布告鐵道零則別紙ノ通改正候條此旨相達候  
事

但開局日限ノ儀ハ治定ノ上退テ可相達候事

別紙 鐵道零則

第一條 賃金之事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃  
金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決テ列車ニ乗ル  
可ラス

第二條 手形檢査及渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改テ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査  
ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サレル者ハ更  
ニ最初發車ノステーション場ニテ旅客ノ乗リ下リ荷物  
ノ積ミ下ロシチヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ  
乘來リシ者ニテ其確証判然タルトハ其乘リタル場所ヨ  
リノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中ステーションニテ乘組並手形ノ事

途中ステーションニ於テ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘  
リ組ムコトヲ得ヘン若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ル



へキ餘地ナキハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ  
人丈ケ先ツ乗込ムヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク  
客數人アルハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乗ルヲ得  
ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ  
遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラステ  
更ニ上等ノ車ニ乗り組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ  
過キ増賃金ヲ拂ハステ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ  
免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所  
ニ至リナカラ車ヨリ下リ去ルヲ肯セズ其外如何ナル  
仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰  
スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總テ列車ノ運轉中ニ出入スルヲ又ハ車内旅客ノ居ルヘ  
キ場所ノ外ニ乗ルヲ禁ス

第六條 疱瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

疱瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人  
車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外并鐵道  
構外へ退去セシムヘシ

第七條 吸烟并婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラステ「ステーション」構内吸烟ヲ禁セシ場所並ニ  
吸烟ヲ禁セシ車内ニテ吸烟スルヲ許サス且婦人ノ爲  
メニ設アル車及部屋等ニ男子妄リニ立入ルヲ許サス若  
シ右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并鐵  
道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ不限總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」并鐵道構内ニテ醉ニ乗シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道構外へ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ不限浪リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識掲示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等へ乗込ヲ禁スルノ事

機關方並火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ機關車又ハ

炭水車ニ乘リ或ハ乘ラント爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許シヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設ケサル車ニ乘リ又ハ乘ラント爲ス可カラス若此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所へ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道構内へ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外へ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリハ總テ之カ爲ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取証書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシ假令賃金ヲ拂ヒ証書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服

ノミニ止リ且償金モ五十圓ニ過ルコトナシ

第十三條 高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關

アル事

金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定証書  
金銀請拂証書地所建家沽券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍  
金及諸彫鐫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ  
混作ノ品類及硝子器類陶器酒類蠶種繭布生熟糸等ノ  
品物運送方ニ付テハ其品柄并價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申  
立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府  
ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ  
其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合証

書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サル分ハ  
如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛一匹金二十圓以上  
馬一匹或ハ乳牛一匹ニ金五十圓以上羊或ハ豚一匹ニ金  
五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スル  
ヲ禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトリヤ  
ム」「ケロシン」「ナイル」「トルペンタイ」等石炭油  
硝性并ニ爆發質  
燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛リノ者ヘ引渡シ又ハ請取ノ度毎

ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者へ差出スヘシ

第十八條 物品并畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品并畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非サレハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙拂ハサル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若又其荷物既ニ他所ニ運送セシキハ之ヲ留置キ同人附屬ノ荷物鐵道掛リへ送り來ル事アルキハ之ヲ留置キ同人へ告知ラセタル上ニテ滞金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滞金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人へ返スヘシ又時宜ニヨリ右ノ取計ヒヲ爲サ

ス法官ニ訴ヘテ賃金并入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乗車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ

第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルトキハ遍シ告達スヘシ

第二十二條 荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條

旅客并荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革每ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナシ臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ  
右之條々此度確定候事

(第二百四十條) 明治五年壬申五月四日第四百四十七號御達

鐵道犯罪罰例別冊之通被相定候事 改正達第二百四十一條參看

別紙 鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以内ノ罰金ニ

處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルキハ其事情ニ依リ百圓以内ノ罰金又ハ一年半以内ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

第二條 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十

五圓以内ノ罰金ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ

處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ

二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ

十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃

金ヲ沒シ二十圓以内ノ罰金ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ百日以内ノ徵役或ハ禁錮ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺僞ノ品物ヲ出ス者ハ其品物一噸斤七百コトニ二十五圓ノ罰金ニ處ス一噸以下ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰

ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但シ其償金ノ追徵モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追徵ス可シ

(第二百四十一條) 明治六年三月十三日第一百號御達

壬申第四百四十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

別紙 鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルキハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

第二條 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十

五圓ノ罰金或ハ三十日ノ禁錮ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰

金或ハ三十日ノ禁錮ニ處ス

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺僞ノ品物ヲ出ス者ハ三ヶ月以内ノ懲役又ハ禁錮或ハ其品物一噸千七百斤以下ハ十圓尤一罰ノ贖金高五百圓ニ過ギス

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但シ其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追徴スヘシ

(第二百四十二條) 明治八年一月二十二日東京府番外達

去ル六年十二月中芝浦邊瀛車通行ノ節何者ノ所業ニ候哉石投ケ候者有之既ニ鐵道寮ヨリ締方最寄人民へ相達置候末尙又本月四日芝橋邊ニテ同様ノ所業ヲナシ東窓之硝子ヲ毀テ候ノミナラス乘客へ疵付ケ以ノ外ノ事ニ候且ツ六郷以北蒲田村大井村品川ノ間鐵道線上へ數度木石等差置幸ニ巡回ノモノ見出シ怪我無之候トモ右等ノ爲万一瀛車轉覆及候ハ、内外數多之乘客至重ノ人命ニ關シ不相濟旨同寮ヨリ通達有之ニ付向後前件ノ如キ所爲無之様最寄區々無洩屹ト可相達候若心得違ノ者有之候ハ、兒童ト雖モ其筋ニ於テ相當ノ處分可申付間此旨相達候事

鐵道規則附錄

(第二百四十三條) 明治六年四月十日御指令本省伺

今般鐵道犯罪罰例中懲役ノ儀佛國ノ罰法於テハ施行致兼候趣佛公使申出ニ付万一佛國人犯罪懲役或ハ禁錮ノ處分ニ當ル節ハ禁錮ノ方ニ處シ候云々外務省伺出御允可相成候旨御達相成候處右ハ内外一般人民ハ懲役或ハ禁錮ニ處シ獨リ佛國人ニ限り禁錮ノ方ニ處シ候儀ニ候哉右ハ神奈川裁判所ヨリ伺出指揮振モ有之候ニ付此段相伺候也

指令

伺之通

〇電信條例



(第二百四十四條)

明治四年辛未十月二十四日御達

東京ヨリ長崎迄沿道諸縣

今般東京ヨリ長崎迄電信線掛渡ノ儀ハ内外公私便利ノ  
タメ御取設ケ相成候儀ニテ重大ノ事件ニ付萬一心得違  
ノ輩御成業ノ妨害ヲ爲シ又ハ右電信線ヲ毀損致等ノ所  
業有之候テハ御國威ニモ關係シ以ノ外ノ事ニ候條沿道  
地方官於テ兼テ取締方行届候様可致自然粗暴ノ企有之  
節ハ臨機相應ノ護衛差出嚴重取計可致事

(第二百四十五條)

明治五年壬申四月四日第百九號御達

東京ヨリ長崎迄沿道府縣

東京ヨリ長崎迄ノ電信線ハ内外公私兩便ノ爲メ御施設  
ニ相成海外ノ線へ接續シ重大ノ事業ニ付昨未十月厚キ  
御布告ノ旨モ有之候處間々心得違本杭腕木笠木等ヲ毀

損シ或ハ陶器械へ礫ヲ打付又ハ線上へ雜物ヲ投掛夫カ  
爲機線不通ノ害ヲ起シ候儀モ有之哉ニ相聞へ以ノ外ノ  
事ニ候右取締向ハ地方官ノ主任ニ候條御趣意ヲ奉體シ  
沿道各管内ニ於テ障礙無之様嚴重ニ守線ノ方法相立早  
々工部省へ可申出事

(第二百四十六條)

明治六年四月十八日第百三十六號御布

告

傳信線へ雜物ヲ投掛其他障礙ヲ成ス者取締ノ儀ニ付壬  
申四月線路地方へ布告ノ旨モ有之且東京府下達式註違  
條例中ニモ掲載有之候處間々紙鳶等ヲ打掛ル所ヨリ雨  
氣浸潤シ夫カ爲メ澁滯不通ノ害ヲ醸成スル事不少追々  
線數増架ノ際右様ノ儀有之候テハ甚以不相濟事ニ付以  
來線路近傍ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ候儀令禁止候條此旨相心

得線路ニ係ル府縣ニ於テハ一層取締行届候様注意可致  
事

(第二百四十七條) 明治六年八月十三日第三百號御布告

各所電信線架設ノ儀追々落成候ニ付通信規則別冊ノ通  
相定候條此旨布告候事 別冊電信取  
規則則零之

(第二百四十八條) 明治七年九月二十二日第九十八號御布

告

電信條例別冊ノ通相定本年十二月一日ヨリ施行候條此  
旨布告候事

別冊 日本帝國電信條例

第一條 此條例ハ日本帝國政府電信寮ニ於テ所轄スル  
處ノ電機上ニ施行スルナリ

第二條 此條例中ニ用ユル電報ノ語ハ百般ノ音信總テ

電機ヲ以テ傳送シ又ハ傳送セント欲スルモノヲ指テ  
言フナリ

第三條 日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヨリ傳送  
スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ受取  
リ取集メ届渡等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ  
有ス

第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電槽器械柱木信線  
若シクハ其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支凸腕木枷木陶器  
海底線浮標旗竿號報柱及ヒ電機并ニ其附屬一切ノ物  
品ヲ毀傷スル者或ハ此ノ電機ニテ通信ノ傳送携致又  
届渡シテ如何様ナル仕方ニテモ妨碍スル者其他上件  
ノ架木支凸腕木ヲ拔取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル  
罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

但シ過誤失錯ニ出ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金  
ノミチ出サシム

第五條 電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何  
人ニテモ電信寮ノ事務ニ従事スル際之ヲ攻打シ或ハ  
粗暴ノ舉動ヲナシ其事業ニ妨碍抗抵ヲ爲ス者ハ五百  
圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三ヶ月ヨリ長カラサル懲  
役或ハ禁獄ニ處ス

第六條 何人ニテモ不法ニ柱木枷木海底線信線旗竿浮  
標其他電機又ハ其附属一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸  
畜或ハ舟筏等ヲ繫ク者ハ其所行ニ依テ損害ノ有無ヲ  
論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日  
ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第七條 何人ニテモ柱木信線陶器旗竿腕木枷木支凸號

報柱浮標其他ノ物品へ瓦礫若シクハ雜物ヲ投擲シ又  
矢箭火器ヲ彈射スル者ハ其所行ニ依テ毀傷ノ有無ヲ  
論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日  
ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙鳶ヲ飛シ信線陶  
器腕木枷木支凸其他電機ニ属スル物品へ紙鳶又ハ其  
附属ノ糸等ヲ引掛ケ電氣ノ妨碍ヲ生セシムル者ハ十  
圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役  
或ハ禁獄ニ處ス

第九條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電信寮ヨリ其  
局々或ハ電線沿道ノ所々ニ取立タル標識掲示等ヲ削  
剝シ又ハ拔去者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四  
十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條 何人ニテモ不法ニ電機用ノ一部分タル柱木旗竿信線支柱へ攀チ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依テ妨害ノ有無ヲ論セス二十五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十一條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附屬ノ物品へ落書圖繪又ハ鐫刻スル者ハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十二條 電機掛官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他人へ届渡スヘキ電報ヲ故意ヲ以テ隱匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ届渡スヘキ命令ヲ怠リ或ハ肯セサル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日

ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十三條 電信寮ニ仕官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳送又ハ届渡スヲ忘却遅延スル者又ハ同様ノヲニ依テ音信ノ傳送届渡シヲ妨碍遷延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳洩スル者又ハ他ノ人民又ハ電信寮ノ官員ト雖モ其場ニ立入ベキ職務ニ非サル者ヲ電信寮ノ器械室ニ立入ラセ又ハ滯居セシムル者等以上ノ各犯ハ一百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

第十四條 凡此條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十五條 凡此條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨害ヲ生スル者ハ例ニ照シテ處分

スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム  
但工部省所管電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處  
分ス

第十六條 凡犯人ヲ處斷シ罰金並ニ償金ノ額ヲ定ムル  
ハ總テ裁判官ノ權内ニ屬ス

第十七條 凡犯罪ノ形狀ヲ裁判官へ報告シ其處分ヲ乞  
フ手順ハ工部省ニテ取扱フノ權ヲ有ス

電信條例附錄

(第二百四十九條) 明治六年七月十四日御指令本省伺  
地方註違罪目中物ヲ打掛電信線ヲ妨害スル者ノ條ハ可  
刪除旨此頃御指令有之候處東京府下註違罪目ニモ同斷  
ノ條有之右ハ東京ト各地方ト差別モ有之間敷仍テ東京  
府下註違罪目中ノ條モ刪除致可然哉且今年太政官御布

告第三百三十六號電信線路紙鴛被相禁御趣意ニヨリ本條  
ノ犯人ハ違令ト見做シ取押裁判所へ送致シ可然哉此段  
併テ相伺候也

御指令

追テ電信線ヲ妨害スル者ノ罰則御定有之迄ハ違令或  
ハ違式ヲ以處斷可相成ニ付犯人取押候節ハ伺之通裁  
判所へ送致スヘキ事

(第二百五十條) 明治七年第七十五號四月二十三日指令埜  
玉裁判所伺

凡ソ火ヲ失シテ傳信線ニ延燒スル者ハ自己ノ宅舍ヲ燒  
クニ一等ヲ加ヘ懲役三十日聽贖シ可然哉

指令

人ノ宅舍ヲ延燒スル者ヲ以テ論ス

(第二百五十一條)

明治七年第七十五號四月二十三日指令

橡木裁判所伺

行兇人アリ暴ニ電信線ヲ斷切シ或ハ杭柱ヲ毀損スル者  
情ヲ量リ不應爲輕重ニ問ヒ可然哉其器物ニ係ルヲ以テ  
棄毀器物條ニ依リ可然哉過誤ニ出ルハ元ヨリ贖ヲ聽シ  
可申哉

但開業既ニナルト未タナラサルトニヨリ區別有之候  
哉

指令

故サラニ棄毀スル者ハ不應爲重ニ問ヒ實決シ誤テス  
ル者ハ同シク輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス

但開業式ノ成否ニ區別ナシ

(第二百五十二條) 明治八年第五十二號四月四日指令水澤

縣伺

明治七年九月二十四日第九十八號御布告電信條例中處  
罰ノ儀罰金又ハ懲役或ハ禁獄ニ處ス且其第十六條ニ犯  
人ヲ處斷シ罰金并償金ノ額ヲ定ムル云々トノミ有之何  
様ノ犯情ハ罰金如何ナル事狀ハ懲役或禁獄ニ處スルト  
ノ區別開載無之候ヘヒ全ク裁判官ノ意見ヲ以テ是ハ禁  
獄彼レハ懲役若シクハ罰金相當ト思量シ範圍中適宜ニ  
處分スル儀ニ可有之哉

指令

犯罪ノ者ハ總テ罰金ヲ科ス可シ但不得止節ハ懲役或  
ハ禁獄ニ處スト可相心得事

○藥品取締規則

(第二百五十三條)

明治二年己巳八月九日御達

鴉片烟草ノ儀ハ兼テ嚴禁ノ處今般猶又販賣鴉片烟草律御定ニ相成各港在留ノ支那人ヘモ嚴重禁止被仰出候且藥用ニ供シ候生鴉片タリモ勝手ニ取扱候儀不相成別紙ノ通取扱規則ヲモ被爲立候條各地方官ニ於テモ管内人民末々迄心得違無之様屹度取締可致事

別紙 生鴉片取扱規則

藥店中現在所持ノ分ハ各地方官廳ニテ検査ヲ遂ケ品位量目等委細簿記シ可置事  
不得已藥用ニ供シ候儀有之賣買致シ候節ハ其度毎ニ藥店醫師ヨリモ品位量目等委細官廳ヘ可届出事  
藥用闕乏ニ付外國ヨリ取寄度節ハ各地方官ヨリ開港場ヘ申立候ハ、別段ノ注文ヲ以テ取寄候様可致事

(第二百五十四條)

明治三年庚午十二月二十三日御達

今般賣藥取締ノ儀大學東校所轄ニ被仰付別冊ノ通規則被相定候條府藩縣ニ於テ管内賣藥之者共ヘ相達取締可致且從來之賣藥々方書并功能用法定價等詳細相記シ東校ヘ可差出事  
廢止達第二百五十五條參看

別紙 賣藥取締規則

賣藥類自今大學東校ニ於テ名實功否検査ノ上免狀ヲ與ヘ賣鬻ヲ許スヘキ事  
從來賣藥ニ勅許御免等ノ字ヲ用ヒ又ハ神佛夢想家傳秘法杯ノ稱ヲ用ヒ候儀自今一切禁止ノ事  
新規賣藥發行致シ度モノハ藥法功能定價目方何等相記シ東校ヘ願出免狀ヲ受クヘキ事  
拔群有益ノ藥方又ハ製藥類新ニ發明スルモノハ七ヶ年

ノ間當人ノ專賣ヲ許シ發明ノ賞トス七ケ年ノ後ハ其藥  
法ヲ明細ニ記シ諸國一般ニ布告シ廣ク發行スルヲ許ス  
諸賣藥々品原價巨細ニ相糺シ東校ニ於テ相當ノ定價ヲ  
極メ免狀ヘ記シ相渡シ候條定價ノ外聊クリヒ増價ノ儀  
堅ク禁止ノ事

(第二百五十五條) 明治五年壬申七月十七日第二百二號御

達

庚午十二月中賣藥ノ儀ハ大學東校ニ於テ致取締候様相  
達置候處御詮議ノ次第有之自今御廢止相成候條此旨可  
相心得事

(第二百五十六條) 明治八年七月二十五日日本省達

東京裁判所

藥品取締罰則ノ儀ニ付別紙甲印ノ通昨七年十二月中御

達相成居候處今般右施行日限ノ儀内務卿ヨリ乙印ノ通  
リ通知有之候條此旨相達候事

別紙

甲御達 同七年十二月二十五日

司法省

藥品取締及ヒ罰則ノ儀別紙ノ通東京京都大坂三府へ相  
達候條此旨相心得該地裁判所へ可相達事

但罰則施行ノ期日ハ追テ文部省ヨリ通達可致事

別紙御達 同七年十二月二十五日

東京京都大坂三府

藥品ノ儀ハ純真精製ニ無之テハ眼前人命ヲ誤リ候重要  
ノ品柄故賣買上取締方法可相立ニ付自今キニテ、ヨ  
トボットアス、一ニヨド云フノ二藥方一贗惡ノ品販賣貯藏



致候者ハ左ノ罰則ニ照シ處分候條此旨管下へ布達スヘキ事

但爾他ノ藥品モ其名ヲ掲ケ順次相達スヘク且本文罰則施行ノ期日ハ追テ文部省ヨリ可相達事

罰則

贖藥敗藥ヲ販賣スルモノハ五十圓以内ノ罰金ヲ課スヘシ

但再犯以上ハ初度ニ倍スル罰金ヲ課シ尙藥品ノ販賣ヲ禁ス

乙内務省ヨリ本省へ通達 同八年七月二十三日

昨七年十二月二十五日三府へ御達相成候藥品取締罰則ノ儀來ル十月一日ヨリ施行候條此段及御通達候也

藥品取締規則附錄

(第二百五十七條) 明治八年第八十九號十一月七日指令京

都裁判所伺

七年十二月正院御布達賣藥罰則但書ニ但再犯以上ハ初度ニ倍スル罰金ヲ課ストアリ右ハ假令ハ其敗藥等ヲ故賣スル者初犯五十圓ノ罰金ヲ科スレハ再犯ハ百圓ノ罰金ヲ科スレハ再犯ハ百圓ノ罰金ヲ科スレハ再犯ハ百圓ノ罰金ヲ科スレハ再犯ハ百圓ノ罰金ヲ科スル儀ト相心得可然哉又曰尙藥品ノ販賣ヲ禁スト右ハキニ一子等ノ贖惡タルヲ知テ故賣セシ者再犯後ハ其キニ一子等ノ藥種ノミ再ヒ販賣ヲ禁スルトノ儀カ將ク再犯後ハ一体ニ各種藥品ノ販賣ヲ禁シ藥店ノ營業ヲ差止ムル儀カ若シ然レハ其營業禁止ノ者ニシテ仍ホ藥品ノ販賣ヲ爲スニ係ラハ其非常律ニ問ヒ其贖惡ノ品ヲ鬻クニ至テハ三犯ヲ以テ論シ初犯ノ一倍百圓ノ罰金ヲ科シ可

然哉

指令

藥品ノ販賣ヲ禁ストハ藥店ノ營業ヲ差止ル儀ト心得  
 へシ其餘ハ總テ伺ノ通  
 同御達中貯藏致シ候者云々トアルハ贖藥敗藥ヲ密藏シ  
 テ販賣セントスルノ意アル者ヲ指ス儀ニテ曾テ其筋ノ  
 檢明ヲ受贖惡ト決セシ藥品ヲ止タ所持シテ販賣ニ意ナ  
 キモノハ處罰ノ限ニアラサル儀ト心得可然哉  
 指令  
 伺之通

〇度量衡取締條例

(第二百五十八條) 明治八年八月五日第百三十五號御達

使 府 縣

今般度量衡取締條例並檢査規則種類表等別紙ノ通相定  
 候條便宜ノ場所見計ヒ製作所賣捌所ヲ設ケ從來ノ弊害  
 ヲ除キ候様厚ク注意施行可致此旨相達候事檢査規則并  
種類表等大藏  
 但度量衡原器及ヒ檢印并器械配達檢査計算表等大藏  
 省ヨリ配達候條同省ヨリ可受取且製作請負人申付候  
 者ノ居所姓名等同省へ申立免許鑑札受取尤右日限ハ  
 各地方管廳東京ヲ距ル百里以内ハ此達書到着ノ日ヨ  
 リ三十日限リ百里以外二百里迄ハ同四十日限リ二百  
 里以外三百里迄ハ同五十日限リ三百里以外ハ同六十  
 日限リ可申出事

別 紙 度 量 衡 取 締 條 例

第一條 度量衡三器權衡ハ桿秤天秤并分銅  
相屬シテ三器ノ一トス向後製作ノ

儀ハ各地方ニ於テ製作所每器一ヶ所ツ、製作請負人  
每器一人宛ト相定メ其管廳ニ於テ身元人物相當ノ者  
相撰ニ新ニ可申付事

右各管廳ニ於テ製作請負人申付候節其居所姓名等大  
藏省へ申立同省ヨリ製作免許鑑札請取可下渡事

但製作請負人休業イタシ代業ノ者申付候節ハ右下  
渡シ候鑑札大藏省へ相納メ更ニ同省ヨリ新鑑札請  
取可下渡事

第二條 従前ノ枡秤改役座方ハ製作所ニ於テ出来ノ新  
器發賣ノ日限ヨリ廢止候事

但従前ノ枡秤改役座方ハ自今廢止スト雖モ第一條  
掲示ノ通り身元人物相當ニ候得ハ更ニ製作請負人  
ニ相撰ニ候儀不苦事

第三條 三器賣捌所ハ東京ハ各器五ヶ所或ハ六ヶ所宛

西京ハ二ヶ所或ハ三ヶ所宛大坂ハ三ヶ所或ハ四ヶ所  
宛其餘ハ各地方ニ於テ管轄地ノ廣狹ニ應シ土民ノ便  
利ヲ計リ適宜ノ場所見計ヒ个数相定メ其管廳ニ於テ  
身元人物相當ノ者相撰ニ各器賣捌人新ニ可申付事  
右各管廳ニ於テ賣捌人申付候節賣捌免許鑑札大藏省  
ヨリ可相渡ニ付同省ヨリ請取其管廳ノ印章相調シ本  
帳割印押切リ下渡シ然ル上其者ノ居所姓名等直ニ同  
省へ可届出事

但賣捌人休業イタシ代業ノ者申付候節ハ右下渡候  
鑑札取上ケ更ニ新鑑札下渡シ其段大藏省へ可届出  
其節取上ケ鑑札ハ同省へ返納可致事

第四條 各器製作所賣捌所共免許相成候ハ、何製作所

何賣捌所ト大書イタシ候標札相掲ケサスヘキ事

第五條 度量衡原器ノ儀ハ各原器ニタ通リツ、大藏省ヨリ各管廳ヘ配達候條一ト通リハ其管下製作請負人ヘ下渡シ向後各器製作ノ規範ト致サセ一ト通リハ其

管廳ニ備置各器検査ノ照準トイタスヘキ事

右度量衡原器ニ附属ノ器械并各器ノ検査印章及度量衡製作順序番號印等は亦大藏省ヨリ配達候事

第六條 度量衡取締條例并度量衡種類表ハ三器製作所必得ノ爲メ各器製作請負人ヘ一部ツ、下渡スヘキ事

第七條 賣捌所ニオキテ新製ノ器發賣日限ノ儀ハ各製作所ニテ新製ノ器概テ出來ノ上一般ヘ布告ニ可及ニ付右出來ノ期限ヲ預定シ大藏省ヘ可届出事

第八條 各管廳ニ於テ其管下製作所ニテ出來ノ各器改

メ方ハ別冊度量衡検査規則ノ通り検査ノ上一々新器検査ノ印章打込下渡スヘキ事

舊器改メ方ハ新器發賣ノ日ヨリ日數三百日ト定メ各管廳ニ於テ其管下ヨリ舊器持出サセ相改可申尤別冊度量衡検査規則ノ通り検査ノ上一々舊器検査ノ印章打込ニ下渡スヘキ事

但印章打込个所ハ原器ニ打込有之候个所ノ通りタルヘク尤舊器ハ舊章ニ重複セサル様可打込事

第九條 舊器改方ハ第八條ノ通りタル可シト雖モ各管廳ニ於テ改方遍ク行届候様專ラ注意スヘク就テハ管轄地ノ廣狹ニ應シ土民ノ便利ヲ計リ適宜ノ場所見計ヒ出張所ヲ設ク官員分配イタシ候等ハ都テ其地ノ便宜ニ任スヘキ事

右舊器改方出張所ヲ設ケ候向ハ出張所个所取極メ候  
 上大藏省へ届出へキ事  
 右出張所个所届出次第同省ニ於テ舊器検査印章一ケ  
 所ニ付一ト通リツ、尙又可相渡ニ付同省ヨリ請取各  
 出張所へ配達スヘク尤出張所ニ於テ改方照準ノ原器  
 ハ兼テ相渡有之候原器ニ準シ製作所ニテ出来ノ三器  
 各管廳ニ於テ検査ノ上印章打込每器各出張所ノ數ニ  
 應シ一ト通リツ、配達イタスヘキ事

第十條 三器ノ税額及ヒ製作所賣捌所ノ利益ハ左ノ通

タルヘキ事

三器製作ノ諸材料并一切ノ諸費ヲ出来器ノ高ニ割合  
 之ヲ各品各所ノ原價ト立右原價へ二割四分ヲ添へ之  
 ナ賣捌所ノ通價ト定ム其二割四分ノ内

差引殘 一分 但二割四分ノ  
 二割三分

税金 製作所利益  
 賣捌所利益

譬へハ秤一挺ニ付

金一圓 原價  
 金二十四錢 二割四分増價

合金一圓二十四錢賣捌所ノ通價  
 内

金一圓 原價  
 金一錢 税金  
 差引殘 金二十三錢 製作所利益  
 賣捌所利益

右税金ハ検査印章打込下渡シ候器物ニ課シ各器製作  
 請負人ヨリ取立ヘク尤其計算等委曲ハ第十二條ニ參  
 照可致事

右利益製作賣捌所兩所ノ割合ハ工作ト賣捌ノ多少ニ  
應シ申合ノ上適宜ニ取定メ候テ不苦尤原價並通價ノ  
儀ハ決シテ右制限ニ超ヘ候儀相成ラサル旨可申渡置  
事

製作所賣捌所共私ニ通價ヲ高下イタシ賣買候儀不相  
成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分スヘキ事

但原價ハ製作所ヨリ爲書上且増減ノ都度々々届出  
サスヘキ事

賣捌所ニテハ右通價ノ外製作所ヨリ道程ノ遠近ニ應  
シ運賃ヲ添ヘ其他ノ定價ヲ立候ハ不苦候事

但各地ノ定價ハ賣捌所ニ於テ通價并運賃ノ割合書  
添ヘ其管廳ヘ届ケ置カスヘキ事

第十一條 各地ノ賣捌所ハ何地ノ製作所ヨリ買卸シ候

トモ隨意タルヘク且同業中互ノ取引ハ不苦ト雖モ自  
儘ニ枝店取次所等取設ケサシ候儀ハ不相成事

第十二條 舊新度量衡検査員數并税金等計算ノ便ニ供

シノカ爲メ左ノ計算表大藏省ヨリ各管廳ヘ配達候事  
一 舊度量衡検査員數計算表

右二枚ツ、員數記載例ヲ添ヘ配達候條員數記載ノ上  
一枚ハ管廳ニ備置一枚ハ同省ヘ可差出事

一 新度量衡検査員數計算表  
右六枚分三年ツ、員數記載例ヲ添ヘ配達候條本年ヨリ

明後年迄三年間各年員數記載ノ上一枚ハ管廳ニ備置  
一枚ハ每翌年一月限リ同省ヘ可差出事

一 新度量衡税金計算表  
右六枚分三年ツ、員數記載例ヲ添ヘ配達候條本年ヨリ

明後年迄三ヶ年間各年員數記載ノ上一枚ハ管廳ニ備置一枚ハ每翌年一月限り同省へ可差出事  
 度量衡税金ハ第十條揭示ノ通り検査印章打込下渡シ候器物ニ課シ候儀ニ付各器製作請負人ヨリ年々毎月兼テ検査濟器物ノ員數并其原價通價稅額等ノ調書爲差出置每翌年一月ニ至リ同人ヨリ前年分ノ税金取經メ爲差出器新度量衡検査員數計算表ニモ參照イタシ調査精算ノ上右税金計算表ニ添へ同月限り同省へ可相納事

第十三條 製作所ニテ検査印無之品賣出シ又ハ他人猥ニ製作イタシ候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事  
 但尺ハ尺杖等全ク一時假用ノ爲メ目盛リイタシ候

類樹ハ芋烏芋等ヲ斗リ候爲メノ箱ヲ製シ賣候類ハ  
 例外タルヘキ事

第十四條 製作所ノ外尺秤ノ目盛直シ枴ノ縁鍊打替及斗概ノ修復等他人自儘ニイタシ候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

第十五條 賣捌所ニ於テ製作ハ一切禁制タリト雖モ權衡賣捌所ニテハ緒紐附替ノ儀差許候間右緒紐結ヒ方目印等兼テ製作所へ打合セ爲心得置ヘキ事

但緒紐代手数料等ハ最寄同業中申合ノ上定價相立サセ其管廳へ書上ケ爲置ヘキ事

權衡製作所賣捌所ノ外他人自儘ニ緒紐附替候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

第十六條 製作所賣捌所ハ一般ノ工商ト同様ニテ別段

威權之間敷振舞ハ一切相成ラサル事

第十七條 製作所賣捌所共其管廳官員時々見廻リ諸帳面類點檢ノ上書上ケ原價ノ當否及製作高賣揚高等審査可致且米穀酒醬反物等ノ商家へモ時宜次第同様見廻リ用器ノ正否探偵イタスヘキ事

製作所賣捌所共此條ニ觸レ不相當ノ儀有之候ハ、管廳ニ於テ其職業差止メ代人申付其段大藏省へ可届出且其犯狀ニ依リテハ律ニ照シ處分スヘキ事

第十八條 新製ノ器發賣ノ日ヨリ三器共賣捌所ノ外賣買ヲ禁ス自用ノ品舊新器檢査印章有之分賣拂ヒ度者ハ同所へ差出候ハ、相當ノ代價ヲ以テ買取ルヘキ事但向後三器ハ平人賣買一切停止タリト雖モ秤錘皿並柶縁鉄弦鉄等取離シ古鉄トシテ賣買イタシ或ハ

鑄潰シ候儀ハ不苦事

第十九條 舊器改メ三百日ヲ過キ檢査印章無之器商業賣買ノ際ニ相用候事不相成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分スヘキ事

第二十條 従前ノ柶座秤座及尺工ハ自今製作賣捌共一切停止タリト雖モ舊器檢査印章打込相成候分ハ新器發賣ノ日ヨリ百五十日ノ内ニ各器賣捌所ニ於テ相當ノ割引ヲ以テ爲買取ヘキ事

右舊器檢査印章打込相成候分賣捌所ニ於テ買取方ハ各管廳ニ於テ兼テ賣捌人へ申論シ各器買取方目途相立割引ヲ以テ買取候上賣出シ候様可爲致事

但舊器買取員數ハ舊器買取日數百五十日ノ後取調出來次第各管廳ニ於テ賣捌人ヨリ爲書出大藏省へ



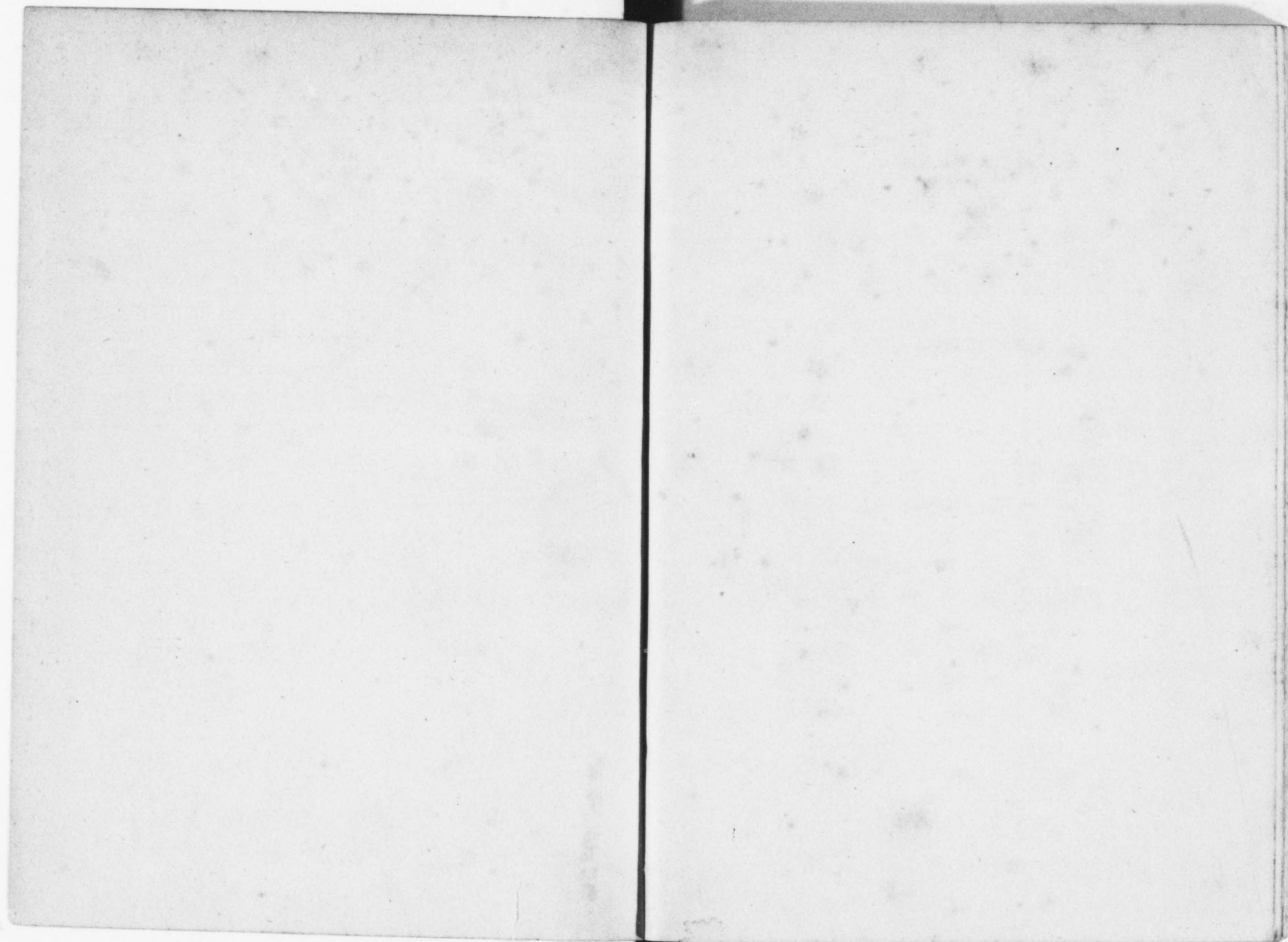
差出スヘキ事

第二十一條 舊器賣買ノ儀ハ第十八條第二十條掲載ノ  
 通リニ候得共舊器賣買ニ付テハ收税ニ不及事  
 第二十二條 此條例中一般ノ人民ニ係リシ儀ハ各地ノ  
 區戸長ヘモ篤ト爲相心得取締筋ニ付万一違犯ノ者有  
 之節ハ速ニ其管廳ヘ訴出候様兼テ可申付置事

正誤

- 八〇丁八行 (二十等)ハ(二十石)ノ誤
- 二二八丁六行 (打込)ハ(打込印)ノ誤
- 三八四丁十二行 (次等)ハ(次第)ノ誤
- 四九三丁一行 (見倣)ハ(見倣)ノ誤
- 五一五丁十一行 御布告ノ下(案)ヲ脱ス
- 五三四丁十二行 鳥獸ノ下(獵)ヲ脱ス
- 五五四丁十一行 (或ニ)ハ(或ハ)ノ誤
- 五五五丁十二行 (制)ハ(製)ノ誤

五 五  
八〇 丁八  
二八 丁六  
三八 丁二  
四一 丁一  
五一 丁一  
六一 丁一  
七一 丁一  
八二 丁一  
九三 丁一  
〇四 丁一  
一五 丁一  
二六 丁一  
三七 丁一  
四八 丁一  
五九 丁一  
七〇 丁一  
八一 丁一  
九二 丁一  
〇三 丁一  
一四 丁一  
二五 丁一  
三六 丁一  
四七 丁一  
五八 丁一  
六九 丁一  
八〇 丁一  
九一 丁一  
〇二 丁一  
一三 丁一  
二四 丁一  
三五 丁一  
四六 丁一  
五七 丁一  
六八 丁一  
七九 丁一  
九〇 丁一  
〇一 丁一  
一二 丁一  
二三 丁一  
三四 丁一  
四五 丁一  
五六 丁一  
六七 丁一  
七八 丁一  
八九 丁一  
〇〇 丁一



定價金壹圓五拾錢

